

令和6年度 第1回 政策調整会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和6年4月9日（火） 13：30～14：00
 - ◆開催場所：第2委員会室
 - ◆出席委員：波積副市長、岸副市長、大下教育長、西川総合政策部長、谷口総務部長、寺本財務部長、池内生涯学習部長
 - ◆説明者：河内スポーツ振興課長、中島スポーツ推進担当長
-

◆審議事項

岸和田市スポーツ推進計画（改定版）策定について・・・・・・生涯学習部スポーツ振興課⇒承認

◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈波積副市長〉岸和田建老大学の入学式に行った際、会場が満杯で、岸和田は高齢者が元気だと改めて感じた。いきいき百歳体操においても、自発的に市民が動くという体質が岸和田にはかなりある。今回の計画も含め、スポーツの推進は前に進んでいると非常に感じている。一方で、子どもの体力向上の実現がなかなか難しいと感じる。令和5年度は、大阪府の平均を上回ってはいるものの、全国平均と比べると下回っており、それが非常に残念であり、課題だと思う。加えて、障害者の部分に関して、もう少し具体的な対応方法を仕込めると良い。いずれにしても、社会体育施設の再編がなかなか前に進まない中で、スポーツを実施する市民の割合を伸ばしているということは素晴らしい。社会体育施設の再編に関して、取り組むべきところは全庁的に考え、一緒に成長しながら前に進めていきたい。

〈岸副市長〉改定版本編の19ページ、社会体育施設の役割と方向性の部分について。各施設の今後の方向性の中で、「あり方を検討する」という表現になっている箇所が多いが、進め方について、この中では具体の言葉で表現しないのか。

〈スポーツ振興課長〉この推進計画においては具体的などころまで示さない。施設については社会体育施設基本方針に基づき、それぞれの施設の区分ごとに実施計画を作成していくので、その中で具体案、方向性を示したいと考えている。

〈教育長〉まず、競技スポーツをはじめとするレベルの高いスポーツを推進することに加えて、市民全体の体力の向上を図ることも大事である。施設を必要とするスポーツについては、競技力を高めるという意味で有効である一方、施設の利用者は限られてしまうので、広く市民に体力向上の機会を提供するためには別の方法を考えないといけないと思う。いつでもどこでも誰でも、気楽に親しめるスポーツを広めることが大事で、それが生涯スポーツだという風に思う。そういう意味では、自宅、あるいは公園といった身近な所で市民がスポーツに親しめるような、ソフト部分の展開に重きを置いた施

策が求められると考えている。今回の方向性の中に SNS 等を通じた情報発信もあるので、そういった取組を教育委員会としても進めていきたい。

一方で、社会体育施設そのものは必要な施設である。ただ、数ばかりそろえた結果、不十分なサービスの提供しかできないようではいけないので、しっかりメリハリをつけて再編し、競技スポーツにも対応できる施設の充実につなげていくという取組が大切だと思う。先ほど波積副市長からもお話を頂いたが、これについては全庁的に取組をお願いしたい。

〈財務部長〉概要の2枚目の「スポーツ推進に向けた取組みの主な変更点」のところだが、ページの左側に、「(3) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツの促進」とある。取組内容には、「きっかけに向けた意識啓発」、「スポーツ活動をしやすい環境づくり」とある。これは働き世代・子育て世代に限らず、小さなお子さまから高齢の方まで、全ての世代に漏れなく関わる案件ではないかと感じる。その中で、あえて働き盛り世代や子育て世代に特化した書き方をしている主旨を確認したい。

〈スポーツ振興課長〉改定版本編の39ページ、令和4年度の「市民意識調査結果」を見ると、30歳代の方の運動やスポーツの実施率が低くなっていることがわかった。30歳代の方について、2016年の調査では48.5%の方がスポーツ・運動をしていたが、今回の調査では39.4%となり、世代の中では最も少なくなっている。そのため、いわゆる働き世代・子育て世代の方々を対象にしたいと考えた。

〈財務部長〉意識啓発の弱くなっている部分を底上げしたいという意図か。

〈スポーツ振興課長〉その通り。

〈財務部長〉SNS等の活用に触れているところだが、右側の「(4) スポーツ情報の積極的発信・収集」には「拡充」、左側の「(3) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツの促進」には「新規」とある。双方似たようなことを言っていると思うが、違いは何か。

〈スポーツ推進担当〉右側の(4)については、SNS等での発信をこれまで行っている中で、さらに情報発信を進めていこうという主旨。左側の(3)は、一人で、誰でもどこでも楽しめるような手軽にできるような運動に関する情報を、しっかりアンケート結果を踏まえてやっていこうということで「新規」としている。

〈教育長〉要するに、右側は「普通のスポーツ情報をSNSで発信」、左側は「きっかけ作りということに着目して、そこに新しい観点からSNSを活用していく」ということの違い。改めて整理をして、分かりやすく説明できるようにしておくこと。

〈財務部長〉スポーツを振興し、皆さんにスポーツをしていただくというのは、体力づくりという観点だけでなく心の部分も大事で、心身共に健康になっていくという主旨もある。健康寿命という言葉もよく使う。いきいき百歳体操などの取組のように、いつまでも自分のことは自分でできるという年齢の重ね方をしていけるのが理想。スポーツもそういった目的達成の手段の一つだと思う。そういう言葉をできれば盛り込んでほしい。

〈総務部長〉「計画改定」のところでコロナによる影響にも触れており、今回の改定は良いタイミングだと思う。実際、我々の生活はコロナによる影響を受けているので、スポーツの面でも、自分自身も周囲も、少し変わったのではないかという実感がある。それをコロナ禍前の状態に戻すには、何らかのきっかけが必要。計画の中で「スポーツの『きっかけ』に向けた意識啓発」といったところにも触れているので、コロナを念頭に置き、ひと工夫したきっかけ作りに取り組んでほしい。

〈波積副市長〉運動・スポーツというと、ジム通いや水泳などといったことが連想されるが、一駅分歩くことも運動・スポーツ。あまりスポーツのハードルを上げないように、むしろハードルを下げて、「多めに歩くこともスポーツ」と発信することも、忙しい働き盛り世代へのスポーツ促進になるのではないか。

〈総合政策部長〉コロナの影響により運動・スポーツに親しむ人口が減少したという市民アンケートの説明があった。観光やイベントなどでは、揺り戻しで参加者が増加傾向にあると耳にするが、スポーツはなかなかそういった傾向がない。理由として、観光やイベントなどの単発のものではなく、スポーツとは継続が必要なものであることが挙げられる。そういった意味で、コロナの影響を踏まえスポーツを推進しようというのであれば、「継続」というところにも支援ができるような体制をとっていただきたい。加えて、社会体育施設の再編が課題となっている。スポーツの推進と社会体育施設の再編は相反するものではないか、という人もいると思うが、そうではない。教育長もおっしゃっていたとおり、再編によってスポーツ活動の場所がなくなるという意味ではなく、整理していくことで、きちんと活動できる場所を提供できる。その結果、スポーツ活動の機会を充実させていける。そういった旨を説明できるような体制を整えてほしい。

〈教 育 長〉財務部長から指摘いただいた、心の健康と健康寿命を盛り込む必要がある。

〈総合政策部長〉表現の修正が必要なところを検討し、原案のとおり政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案を一部修正のうえ、政策決定会議に付議する。

令和 6 年 4 月 1 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 生涯学習部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市スポーツ推進計画(改定版)策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	全世代の市民がスポーツに親しむことができる環境づくりなど、スポーツに関わる多様な施策を総合的かつ計画的に推進するため、「岸和田市スポーツ推進計画」(改定版)の策定についてご審議願うもの。
説明者	生涯学習部スポーツ振興課長 河内 生涯学習部スポーツ振興課スポーツ推進担当長 中島
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

付議会議	令和6年度 第1回会議
付議事項	岸和田市スポーツ推進計画(改定版)策定について

★取組の目的

対象	
どのような状態を目指す	「週1回以上、運動・スポーツを実施する市民の割合」を32.2%(2016年度)から65%(2027年度)まで引き上げる。

★総合計画上の位置付け

1050201	基本目標	岸和田の次世代を育むまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている
	個別目標の方向性	② スポーツへの親しみ向上や参画を進めるとともに、スポーツで活躍できる環境づくりを進める
	行政の役割	スポーツ活動に参加できる機会を提供する

★現状と課題

◇現状

①市民ニーズについて
市民のスポーツ活動に関するコロナ禍の影響を把握するために、令和4年度に「岸和田市スポーツに関する市民意識調査」を実施した結果、「年齢層にあった個人で気軽に楽しめるスポーツ」への移行や「スポーツに関する広報活動」についてのニーズがみられた。

②岸和田市立社会体育施設再編基本方針に基づく再編整備
令和5年度に岸和田市立社会体育施設再編第1期実施計画及び屋内プール整備方針を策定

◇分野ごとの課題
30歳代の運動・スポーツ実施率の向上、小中学生の体力向上、高齢者対象の多様なメニューの展開、障がい者スポーツの認知度向上、社会体育施設の計画的な再編整備と第2期実施計画の策定、大規模スポーツイベントの開催・誘致、トップアスリートと触れ合う機会の充実やスポーツによる地域振興等に取り組む必要がある。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R4年度	R5年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
スポーツ推進計画アンケート用封筒・アンケート用紙印刷	170	0						
スポーツ推進計画見直しアンケート送付、返信	374	0						
スポーツ推進審議会委員報酬(計画改定にかかる審議)	0	180						
スポーツ推進審議会委員旅費(計画改定にかかる審議)	0	2						
岸和田市スポーツ推進計画中間見直し支援業務委託	0	1,496						
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源	544	1,678					
	その他							
事業費	計			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
			0	0	0	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
有					
	無				

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	H28年度	R4年度	目標値				
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
① 週1回以上、運動・スポーツをする市民の割合		32.2	44.7					65
②								

※事業費及び人員を確約するものではない。